

■猫の城遊具 8 月 4 日 OPEN!

愛・地球博記念公園のもののけの里(今秋開園)近くの芝生広場にスタジオジブリ映画『猫の恩返し』の「猫王の城」をモチーフにした滑り台や迷路、ターザンロープなどのある猫の城遊具がお目見え!小学生以下の子ども達がジブリパークのチケットがなくても楽しめます。



平日無料、土日休日や夏休みなどは小学生以下(4歳未満は無料)は1回100円、付き添い等は1回300円 ©Studio Ghibli
(9時から17時までの1時間毎の入替制)

■トピックス

●木曽三川連合総合水防演習

国土交通省中部地方整備局、愛知県(副総裁大村知事)、岐阜県、三重県ほかの主催で総合水防演習が愛西市の木曽川右岸河川敷で行われ、稲沢水防団は越水防止対策の積み土の工を実施、続いて後日には尾張水害予防組合水防訓練、市消防操法大会(優勝千代田地区第5分団)も実施されました。



●連合愛知尾張地協国政研修会

尾張南地協(豊田合成労組執行委員長後藤代表)と西地協(東海理化労組山口代表)合同国政研修会では参議院議員の大塚耕平氏、斎藤嘉隆氏などからお話を伺い、東京消防庁本所防災館及び東京臨海広域防災公園での防災体験も経験。また、参議院本会議では国民、立民の厳しい現実も拝見しました。



●尾張小中学校校長会総会

名古屋市内で開催された総会では会長に稲沢東小学校渡辺孝雄校長が、副会長に祖父江中学校の江崎浩央校長ほかが就任され、鈴木から尾張地区の県議議員を代表してコロナ禍での対応に敬意と感謝を表すると共に人生100年時代に向けた教育への取組をお願いしました。



●稲沢市老人クラブ連合会総会

総会では生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりに取組むと共に地域の守り手として防犯、交通安全などにも協力頂く老人クラブの皆さんに鈴木から祝辞を述べさせて頂きました。また、長年に亘り市老連会長としてご尽力頂いた柿沼晋会長から家田尚彦会長へバトンタッチされました。



●祖父江町商工会通常総代会

そぶエイチョウ黄葉まつり実行委員会総会に続き、祖父江町商工会(田中浩三会長)第45回通常総代会に出席し愛知県商工会連合会からの陳情項目に触れながら県の取組などを交え祝辞を述べました。また、第62回平和町商工会(水谷光宏会長)の通常総代会も開催され全議案が可決承認されました。



●新政あいち定期総会

設立準備から参加している党派を超えた(鈴木のような無所属、立民、国民)地方議員の集まりである新政あいちの定期総会が開催され新代表に日比県議(春日井市)、副代表に河合県議(知多)、岡本名古屋市議、日當豊田市議、幹事長に小木曾県議(あま市)が選出され連合愛知と連携して新たなスタートです。



鈴木純事務所 稲沢市稲島 10-82

TEL 24-6600 FAX 23-0791



愛知県議会報告

あいち民主県議団

J-PRESS

責任者:鈴木純 名古屋市中区三の丸1-2
代表電話 052-961-2111 FAX052-961-3766

愛知県議会報告はあいち民主県議団及び議員に交付されている政務活動費を充当して作成・配布しています。県政へのご意見をお寄せください。

あいち民主県議団スタート!

7月6日に閉会した愛知県議会6月定例会は、当初提出の一般会計補正予算21億7千2百万円及び豊橋浄水場再整備へ企業会計6千9百万円の補正、愛・地球博記念公園の猫の城遊具の使用料設定の愛知県都市公園条例の一部改正などの条例関係、スタートアップ支援拠点整備等事業の事業契約(約10億円UP)の変更や人事案件などのその他の議案関係に加え、6月2日の豪雨災害に対応する追加補正51億5千7百万円、佐々木副知事退任に伴う牧野氏の就任など全議案を可決同意し閉会しました。

	男性	女性
愛知県(2022年)	10.8%	94.4%
全国(2021年)	13.97%	85.1%

男性の育休所得を推進する中
小企業への支援など出産・子育て支援の取組を強化し少子化対策をさらに推進には10.55億円、県基

幹的広域防災拠点整備には入札不調を受け債務負担行為27.34億円の追加(施設完成は1年遅れて2026年度末に)、空と道がつながる愛知モデル2030の推進に7千万円等が補正予算に計上されています。

さて、老朽化と狭隘化が進む稲沢警察署の建替えに向けて防犯協会連合会会長の加藤市長、安協大屋会長、安管児島会長と知事要望を連携して実施、実現へ前進です。



あいち民主県議団団長就任

団長就任後、統一地方選挙の厳しい結果を受け、団員がこの危機感を共有し、私たちのルーツである「民主」を再認識して立ち位置を明確にするために、あいち民主県議団と名称を変更しました。

また、団のスローガンを、何がなんでも!前進と連携としました。まずは、団員一人一人が自己研鑽に励むとともに、地域の声に耳を傾け、地に足を着けて活動基盤を強固にします。そして、団員相互の連携はもとより、支援団体の連合愛知・尾張南地協や、各種団体、国政、新政あいちに集う地方議員の仲間との連携を強化し、団の総合力を高め県民の皆様の、安心安全、福祉の向上に資する政策提言により県政を前進させます。

特に、With/Afterコロナに向けて、地域経済の立て直しや、一層希薄化が進んだ地域の絆の修復、人口問題対策、コロナ対策の検証に取り組んでまいります。

未来へつづきまわす
へ一生懸命働きます。



PS 磯野宏夫展 8/20
まで狭間記念美術館にて



写真下は議会だよりのあいち民主県議団紹介のTV放送から、上は県庁内特別会議室にて稲沢警察署建替えに向けての知事要望です。



愛知県議会議員
(稲沢市選出)

SUZUKI

すずき純



■豪雨による被害への対応に係る要望



- 2 農地や農作物、近年高度化している農業用施設も含め大きな被害が出ているため、復旧復興に向けた支援を講じること
- 3 被害を受けた事業者の事業継続に向け、資金繰りの支援に万全を期すこと
- 4 道路や河川などの公共土木施設や、農地・農業用水路、山地・林道など森林に係る被害の復旧について、予算を確保して、対応すること
- 5 土砂災害に対する県民の安全確保に万全を期すと共に、同様の災害発生に備え、国に対し各種支援制度の改正など必要な措置を講じよう要請すること

6月2日の台風2号及び梅雨前線による記録的豪雨に対し、あいち民主県議団として地元県議、市議、連合などの要望・意見を取りまとめ大村知事に要望活動を行いました。会場は知事公館が工事中のため本庁舎3階の特別会議室で実施、時間は10分程でしたが公共インフラや農産物などの被害への対応はもとより、生活者支援や高度化する農業施設などに対する支援を要望しました。(以下要望項目です)

- 1 床上浸水等により家屋の洗浄や消毒が必要な県民に対し、水道料金の減免や衛生対策に必要な薬剤等の生活支援を関係市町村と共に講じること。また、災害見舞金の基準緩和を図ること。

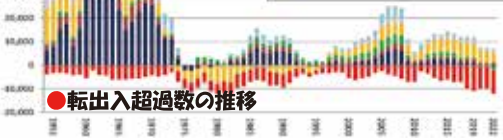


三宅川の池部側が破堤
県による 仮復旧

■愛知県人口問題対策本部設置



県の人口が2019年の755万4千人から昨年は749万8千人と3年連続の減少に対し、大村知事を本部長とする庁内組織人口問題対策本部を設置しました。対策本部では県庁内で人口問題に関する危機意識を共有し連携強化を図るとし、有識者の意見聴取や市町村連絡会議の開催などを通し基本的な考え方や方向性を示す戦略を10月に策定予定です。



順位	都道府県名	合計特殊出生率
1	沖縄県	1.80
2	鹿児島県	1.65
3	宮崎県	1.64
4	鳥取県	1.62
5	長崎県	1.60
6	熊本県	1.59
7	福井県	1.57
8	佐賀県	1.56
9	大分県	1.54
10	鳥取県	1.51

●都道府県別合計特殊出生率

●直近1年間(2021年10月～2022年9月)の県内の市町村別人口は、日進市723人、長久手市536人、みよし市222人、大治町163人など11市町で増加した一方、豊橋市▲2,371人、一宮市▲2,022人、豊田市▲2,012人、半田市▲1,039人、稲沢市▲1,030人など名古屋市内も含め43市町村で減少しており人口減少地域は県内全域に広がっている。

●愛知県人口の自然増減数は2017年に減少に転じて以降、減少幅が拡大しており2022年は▲26,149人、一方社会増減数はコロナなどで2021、22年はマイナスとなったが2022年は7,662人の増とプラスに。

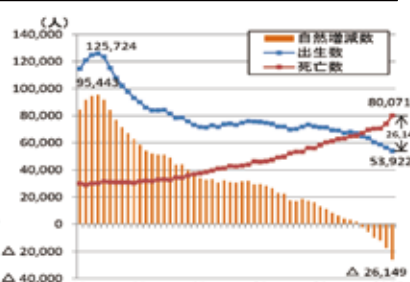
●日本人は自然減の拡大に伴い減少幅が拡大、外国人人口は2019年は2万人を超える増に対し入国規制の2020、21年は減少、2022年は再増加に。

●出生数は減少が続く一方で死亡数は大きく増加、合計特殊出生率は2003年の1.32を底に緩やかに上昇傾向が続いていたが2015年の1.57を境に低下傾向となり2021年は1.41、都道府県別では第23位。(トップは沖縄県の1.80、最下位委は東京都の1.08、全国平均1.30)

●転出入は東京圏に対しては転出超過(特に男性20～29歳、女性20～24歳)が続いており近年では拡大傾向にある。その他地域に対しては転入超過の傾向が続いているが超過数は減少傾向。



●合計特殊出生率(全国・愛知)の推移



●愛知県の自然増減数の推移

■あいちレポート 2022 県政 150 周年特集号から①

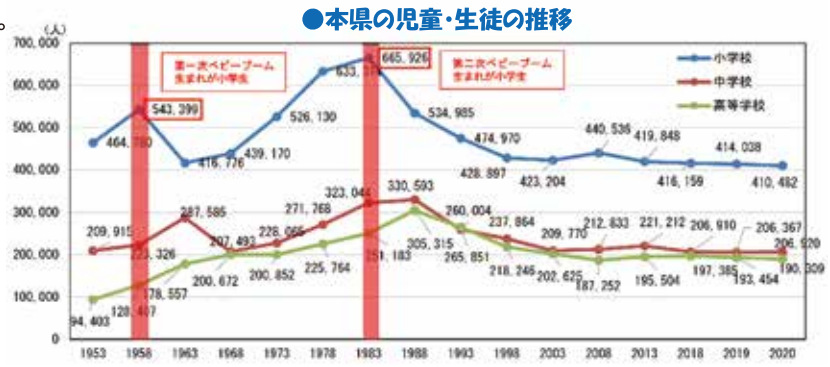
あいちビジョン 2030 の年次レポートとして愛知の今と昔や愛知と国際都市との比較が掲載されたあいちレポート 2022 県政 150 周年特集号が3月に発行されました。内容抜粋で紹介です。(県のHPで検索可)

【愛知の今と昔 2 教育・人材から】

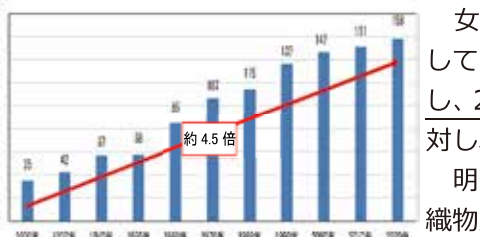
国では1871年7月に文部省が設置され翌年の8月に学制を發布しています。当時の就学率は48.4%(男64.3%、女30.1%)で全国平均の28.1%(男39.9%、女15.1%)に比較し高くなっていました。

1886年に学校種別毎に小学校令、中学校令、師範学校令、帝国大学令の学校令(勅令)が定められ、1946年に公布された日本国憲法の平和主義、国民主権、基本的人権の尊重を具現化する教育基本法、この中核を担う学校教育法により法制化された小学校6年一 中学校3年一高等学校3年制の学校体系では、小学校から前期中等教育の中学校までが義務教育になりました。

本県の児童・生徒数の推移を見ると、小学生は第一次ベビーブーム(1947～49年)に生まれた子どもが小学生期となった1958年頃と、第二次ベビーブーム(1971～74年)に生まれた子どもが小学生期となった1983年頃の2つのピークがあり、その後、緩やかな減少傾向が続いています。



【愛知の今と昔 3 女性の活躍から】



●本県の女性就業者数の推移(1920年～2020年)に従事する女性も多く家事・育児との重労働の中、1898年の民法での「家制度」では女性の地位は男性に比べて著しく低く位置付けられました。

終戦後、女性の参政権、男女平等を定めた新憲法制定、家制度の廃止、教育の機会均等、男女共学など女性の権利拡大が図られました。

その後、経済成長に伴い、女性は学校卒業後、結婚までの一時期働くことが一般的に、それから就業意識の変化等により子育ての一段落後にパートに就くようになりました。

そして、継続就業の意識も高まり、結婚、出産、育児期を通して働く女性も増えていく中、国際的に、1975年の国際婦人年の制定などもあり、1985年に「男女雇用機会均等法」が、2015年には「女性の職業生活における活躍に関する法律」が制定され、女性が個性と能力を発揮しての活躍推進に取り組んでいます。

■愛知県議会議員選挙

稲沢市選挙区では久保田県議と鈴木が無投票当選させて頂きましたが、県全体では102の定数に対し35人が無投票でした。県全体の投票率は35.10%で5回連続最低を更新しました。新政あいちの推薦者35



人のうち、現職3人が落選するなど当選は鈴木を含め現職21人新人7人の28議席で厳しい結果でした。(自58公5減3共1無7)

稲沢市議選は9月17日告示24日投票です。Let's vote! 投票へ行こう!



●告示日はアビタ稲沢店・祖父江平和堂・平和パロ一様で仲間と街宣